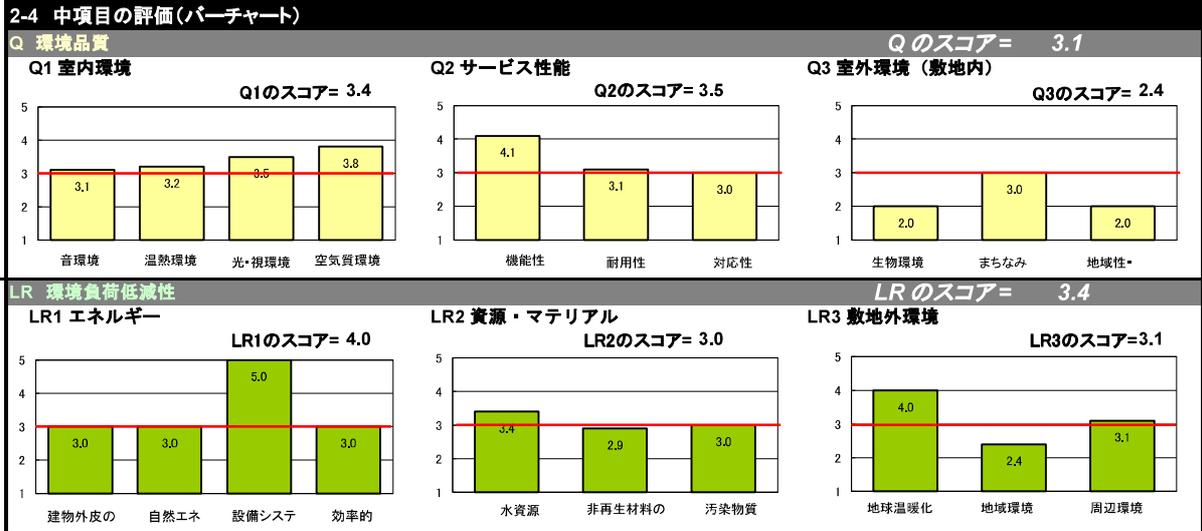
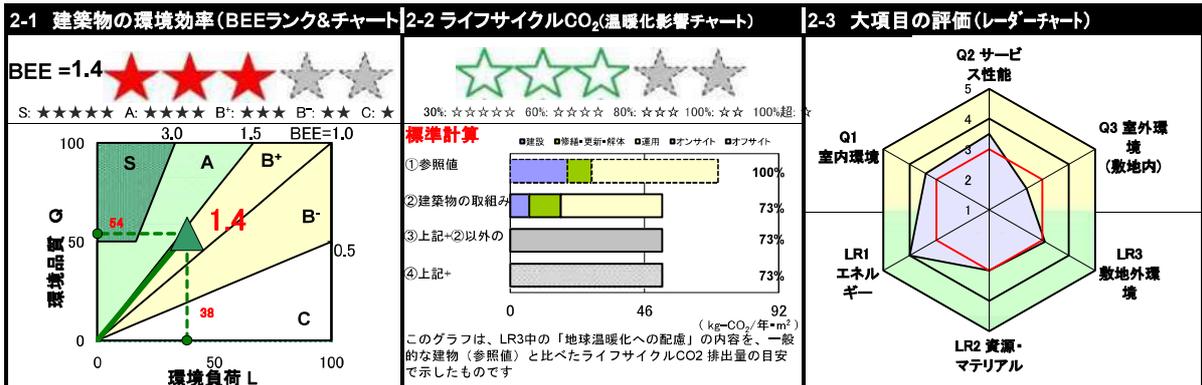


# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ルネ加須	階数	地上12F
建設地	埼玉県加須市	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	3人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,928時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年3月1日
敷地面積	4,210 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,447 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月1日
延床面積	11,830 m <sup>2</sup>	確認者	

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
地域環境や街並みとの調和を図り、省エネルギーや環境負荷の軽減を考慮しつつ、敷地内の防犯や利便性、室内の快適性に配慮した計画としている。	太陽光発電パネルを設置。	
<b>Q1 室内環境</b> ・二重壁によりDr-50を目標値として設定。 ・F☆☆☆☆を、床・壁・天井・天井裏に採用。 ・複層ガラスを採用。	<b>Q2 サービス性能</b> 住宅性能表示基準劣化対策等級3を取得。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 建物の配置、形態、植栽を、地域環境や街並みとの調和に配慮した計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b> 潜熱回収型給湯器エコジョーズ、LED照明を採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 二重壁・二重天井を採用し、資源の再利用に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・適切な駐車・駐輪・バイク置場計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
ルネ加須

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		住居部分 Dr=50				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	<b>4.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.2</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.7</b>	0.50	
1 室温		等級5相当の断熱仕様で計画				<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63	
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.38	<b>5.0</b>	0.38	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 屋光利用						<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 屋光率		住居部分 2.2%				<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 屋光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 屋光制御		カーテンと庇により制御				<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>2.6</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用				<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能						-	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.6</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		1Gbitの通信環境を整備する計画				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	<b>5.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		共同住宅に適した温かみのある空間を計画				<b>5.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能劣化等級3に相当				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、精密機器の浸水対策、災害対策を行っている				<b>5.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.74	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	非常用飲料水の水源に活用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.9</b>	0.60	-	-	<b>2.9</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上げ材のディテールを採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率73%	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は無し	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

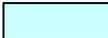
建物名称	ルネ加須	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.0	+	2.0	=	6.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
<配慮した内容を記述> 住宅性能表示基準の劣化対策等級3 住宅性能表示基準の断熱性能等級5			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述> 緑化指針に適合している。 周囲への圧迫感を軽減し、緑地を設け良好な景観を形成している。			

 : 入力欄